返り咲く

松岡隆子

をさなきは素直なかたち槙槌の実

赤き実のいよいよ赤き素十の忌

群るるとふことの淋しき杜鵑草

どの路地をどう曲がりても十三夜

十三夜沓脱石が濡れてをり

菊坂は誰も黙つて暮の秋

長き坂上つて下りて秋深き

ゆく雲が往く雲を押す冬に入る

冬来ると噴水の秀が天を突く

飛ぶものの翅すきとほる冬はじめ

人思ふ白さに躑躅返り咲く

石蕗の花思ふところに咲いてゐし

五周年を過ぎてあっという間に半年が過ぎもう十一月だ。五年という歳月は少々重い。この間物故された方もあり、また体調を崩されて投句を休まれている方もある。欠詠されている方たちも「栞」は読んでおられると思うと嬉しい。最近心温まる話を聞いた。体調を崩されて大分前に退会されたKさんから、加齢と共に視力の衰えが進み書物を読めなくなったので眸先生の句集や著書をどなたかに譲りたいと申し出があったとのこと。早速句友のFさんが貰い受けに行かれ、それらは数年前に入会されたばかりのMさんの手に渡った。眸先生の全句集が揃ったMさんは大喜び。小春日和のある日の話。